

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ベルⅡ	評価実施年月日	平成21年1月5日
評価実施構成員氏名	二瓶真由美・宮川繁子・佐々木康子・山森みどり・菊池靖二・市橋淳子・堤加津子・都筑真弓・齋藤綾子・増野一子		
記録者氏名	二瓶真由美	記録年月日	平成21年1月15日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「家庭的な環境で・・・」を踏まえ地域の方々と交流を深めるよう、話し合いをし、理念を深く追求している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念の共有化に向け、日々のミーティングや申し送りの際に話し合ったり、確認しケアについて意見の統一を図っている。職員のネームプレート裏に理念を記入し日々確認できるようにしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域と密着した事業を行い、利用者が慣れ親しんだ地域の方々に守られて生活できるよう、町内会には事業所だよりを回覧していただいたり、運営推進委員会にて町内会の方々に発信源になって頂けるようご協力の依頼をしている。家族には通信にて地域の方々に協力していただいている事を随時通信などにて報告している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日常の挨拶はもちろんのこと、散歩の際御近所の方々が気軽に声をかけてくださるようになった。ベルⅡ夏祭りの際には今年も町内の方にも声を掛け、たくさんの方が参加して下さいました。御近所の方が無農薬野菜・果物をおすそ分けして下さいました。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の花壇作り、草むしり、清掃に利用者と一緒に参加している。今年は町内会の方々が利用者様の手をひいて歩いて下さるなど、胸が熱くなるようなかわり方をしてくださった。	○	子供SOS避難所として登録していただく予定。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	高齢者ご夫婦だけの家庭で近くに身寄りがいない方に、何かあった時には声を掛けて下さるように話をしている。	○	高齢者の多い地域のため集会で認知症について話をさせて頂く予定。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義や目的を職員全員が理解し、職員全員で評価を行っている。外部評価の結果をもとに、改善すべき点を職員全員で検討し実施できるように努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進委員会を開催し、ホームの様子、行事、サービス内容を報告している。色々な意見を頂き、検討事項は職員と話し合いサービス向上のために努力している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	札幌市管理者会議には必ず出席し、市町村と共にサービスの質の向上に努めている。判断がつかないことがあったり、困難事項があった場合は、札幌市担当者に連絡をとり、相談にのってもらい指示をいただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会があまり無く、参加もできなかった。必要な方に必要な支援をできるよう勉強する機会をもたなければならない。	○	地域権利擁護事業や成年後見制度の研修に参加したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	虐待防止研修会に出席した職員を中心とした勉強会を開催したり、職員各々が虐待防止の事例集・資料を読み勉強している。又ホーム内で虐待が行われないように職員間で注意を払い防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間を十分にとって説明をしている。特に料金・リスク・看取り・医療連携体制の実際などについては詳しく説明し、理解・納得していただいている。契約を解約する際はこれからの不安が無いように協力させていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見や願いは、日常の中でいつでも聴ける様に配慮し、また気軽に話していただける様な心配りをしている。出された意見、願いは管理者・職員が日々話し合い対処し、利用者本位の運営を心掛けている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月個々に、家族への通信を出して健康状態等の近況報告をしたり、写真も掲載し報告している。職員の異動があった時にはその都度お知らせしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族等が意見、願い、苦情をいつでも言っていたるように配慮し、気軽に話していただいている。出された意見などは即職員間で話し合い運営に配慮している。	○	家族会の発足を考えている。ホームページを作成し利用して頂く予定。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃からコミュニケーションをとり、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。全体会議、申し送りの際に聞き出せない時は、夜勤帯に聞く機会を作っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態やペース合わせ、その都度必要に応じて職員の配置(シフト)を考えている。また時間外でも職員がボランティアという形でも快く協力している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職がやむを得ない場合は、利用者の心理的状況、ダメージを考え、その時期や引継ぎの面で最善の努力をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所外の研修には、多くの職員が参加できるように、シフト調整し出席している。後日、職員の勉強会にて研修報告し、共有化し共に勉強している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域の同業者職員と事例検討を行ったり、勉強会をしている。情報を共有する場にもなり、ケアの方法が一つではない事も学ぶ。		他GHIにておむつ業者の方を招きおむつの講習会に参加した。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	日常さりげなく職員の悩み、ストレスを把握するように努力している。職員の人間関係については常に目を配っている。職員同士の人間関係が良好になるよう食事会などを開催している。	○	連続有給休暇の消化を実現したい。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	資格取得にむけての支援・配慮を行っている。「知りたい」「勉強したい」「スキルアップしたい」気持ちを大切に、勤務状況の調整・休日の調整も行う。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前面談を数回時間をとり、本人の思いに向き合い、受けとめ理解しようと工夫している。全職員が情報を共有している。アセスメントシート・センター方式を利用。カンファレンスを開き情報を共有している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	これまでの経緯についてゆっくりとお話を聞くようにして不安なこと、求めていることに耳を傾け、信頼関係を築くようにしている。家族が来所しやすい、話しやすい雰囲気づくりに努め、相談・小さな悩み事でも気軽に話して頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた時には本人や家族の思い、状況を確認し、改善や穏やかな生活が出来る支援の提案を行い、必要であれば訪問診療・訪問看護・訪問歯科・受診介助などのサービスにつなげている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	安心な場所、信頼関係が成立出来るよう努力し、少しずつ馴染みの関係が出来た時点で、サービスを開始している。居室に関しても以前より使用していた家具・馴染みの品を持参して頂き少しでも変化の無い環境・雰囲気をつくり出している。家族との関係も同様で、密に連絡を取らせていただき相談しながら行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	毎日の生活の中で共に喜び、不安を分かち合えるように努力している。「人生の先輩である」という気持ちを常に持ち、支えあう生活の大切さを勉強させていただいている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者が心に思っていることが家族に伝わらない場合などは、職員が話をよく聞き、その胸の内を家族に知らせる。又は家族の気持ちなどを利用者に伝えるなどの架け橋になれるよう努力している。利用者には家族と同じ思い出支援している事も伝わっている。	○	過去の間係を修復できずにいる家族がいるため、お互いを支援していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	利用者と家族が一体となり、楽しめる時間を過ごしていただく目的で、夏祭り、クリスマスパーティーを毎年行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人や知人が気兼ねなく来所していただける雰囲気づくりを大切にしたり、いつでも利用者が電話をしたい時などは支援している。一人暮らしの際利用していた老人センターに週一回通い、友人と囲碁・カラオケなど楽しんでいる方もいらっしゃる関係が途切れないように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ゲーム・料理・体操・季節ごとの行事などが大きな役割を果たしている。又、生活暦・思い出を把握し、利用者同士の共通点を探し出し、いろいろな形で関りができるよう努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用が終了しても電話をしたり、お手紙を書いて、これからの生活にもお役に立てるよう、元利用者や家族と連絡をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に声掛けをし、把握に努めている。危険な事、身体に影響のに限り、本人の希望・意向を大切にしている。意思疎通が困難な方には、家族から情報を頂いている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族に伺ったり、会話の中から、一緒に調理をしながら、アルバムを見ながら、入浴中など、常に把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	出来る事・出来ない事・心身状態を常に職員間で情報交換し、一人ひとりの現状を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族からの日常の関りの中で、思いや意思を聞き反映させるようにしている。職員間の意見交換を行いモニタリングを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日常時記入する個人簿にケアプランを貼り、必ず計画と現状を照らし合わせることを出来るようにしている。又、状態の変化があった場合は介護支援専門員の監理のもとカンファレンスを開きチーム・関係者と話し合い、介護計画の見直しをかけている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のファイルを用意し、食事・水分・排泄・活動を記入している。気づいた事・本人の言葉なども記入している。また一日2回の申し送りを行情報を共有している。他に申し送りノートを利用し、気づいた事を書きとめるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援に対応している。医療連携体制も整っており、訪問診療・訪問看護と24時間対応してくれる。経営者（運営者）は看護師でいつでも来所・支持対応してくれる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員の方も時々来所して下さったり、ボランティアの方も年に4回ほど来所して下さる。地域の文化祭には常に見学に行き、週1回老人センターに通っている利用者もいる。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域包括支援センターの方に相談し、情報をいただいたり、他のサービスを利用する際利用者の状態を説明した上で支援させていただいている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進委員会に地域包括支援センター職員が参加して下さり、これをきっかけに関係が強化された。ケアマネジメントや研修会等でわからないことがあると、電話をし相談にのっていただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医になっている。ほとんどが訪問診療・訪問看護を定期的に受診。緊急の場合でもいつでも診てくださり、指示もいただける。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症に詳しい訪問診療医と常に連絡をとらせていただき、相談したり指示をいただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。医療機関とも契約していて毎週木曜に訪問看護、隔週の金曜日に訪問診療にきていただいて健康管理をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には本人の支援方法に関する情報を提供し、できるだけ日常生活状況、リズムが変わらないように支援して頂けるよう努めている。また、できるだけ職員が頻繁に面会し、安心感を与えるように支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居契約の際、重度化した場合や終末期のあり方について本人、家族に説明している。医療連携している医師と常に連携し、早い段階で話し合い職員ももちろん方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人の気持ちを一番にし、家族と話し合い、安心して納得した終末期を迎えられるように取り組んでいる。医療連携してくださっている医師、看護師はチームとして今後にも備えて、日々の経過は常に連携がとれているし、準備も整っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	自宅へ移り住む場合は、本人と話し合いを十分に行い、本人と家族の関り方やコミュニケーションの重要性をお伝えする。又施設・病院へ移り住む場合は、ケア関係者間の情報交換を密に行い、今までの情報を伝達したり、資料もお渡しする。移り住んだ後も連絡を取り合い本人が今後とも安心した生活ができるよう協力している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	日々の生活の中でプライバシーを損なうような声掛けや、対応などしないように心掛けている。またミーティングの際など、職員間でチェックし具体的に話合っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	なかなか言葉がでてこなかったり、意思決定が出来ない利用者もいらっしゃいますが「待つ」という気持ちを持って職員は支援している。表情や目の動きを見逃さないようにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのその日の状態や考え方・体調を大切に配慮している。集団生活ではあるが、その人らしい自由な生活が出来るよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	理美容は本人の望んでいる店へ行ったり、職員に美容師がいるため、一人ひとりの希望タイミングで支援している。お化粧、マニキュアの支援もして、心から楽しく生き生きと過ごせるよう努めている。外出の際や演奏会・行事の時は必ず支援し喜んで下さっている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立作り、調理、食器拭きを職員と共に行っている。食事を作る時、ジャガイモの皮むき・野菜を切ったり、味付けなど、「自分も作っている」という実感を味わっていただいている。楽しい食事ができるよう職員も同じテーブルを囲んで食事をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコ以外の嗜好物は、一人ひとりの好みを取り入れたり、味付けなども利用者にしていただき、楽しい時間を過ごしていただけるよう支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄のパターンを把握し、さりげない声掛けを重視している。尿失禁も少なくなり、パットなども使用せず暮すことができるようになった利用者もいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間を気にせず、ゆったりとした気持ちで入浴を楽しんで頂けるよう支援している。仲の良い方、ご夫婦は時々一緒に入浴されている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	活動量や昨晚の睡眠状況を把握し、午睡を勧めることもある。夕方からはゆったりとした雰囲気を作り、ホットミルクをすすめる等、その方のペースを大切に休んでいたっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	今までの生活歴や得意分野から一人ひとりの力を発揮して頂けるよう支援している。職員は感謝の言葉を伝え、達成感や喜びを感じていただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	職員は、本人がお金を持つことに大切さは理解しているが、職員に感謝の気持ちからお金を渡し、無くなったと訴えることがあるため、ホームでお預かりしている。お祭り、買い物ツアーの際には、一人ひとりがサイフを持ち好きなものを買って頂く計画を立てた。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気や本人の体調に応じて散歩をし、季節を感じてもらっている。歩調の合う方々に別れ散歩をしたり、短時間でも、個人的にでも戸外に出かけたい希望がある場合もその都度支援している。天気の良い日はお弁当を持ってドライブをすることもある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	函館への一泊旅行・富良野へのラベンダー見学など遠出も支援している。花見・お祭り・文化祭・イルミネーション見学など四季折々の行事を大切に、見学、参加を支援している。	○	家族も一緒に参加できる旅行などを計画し、実現したい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	好きな時に好きな方に電話をできる雰囲気作りをしている。職員のほうから「電話をしたい。」気持ちになるように勧める事もある。手紙は職員と一緒に切手を買って行ったり、ポストに投函をしに行くこともある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問しやすい雰囲気作りに気をつけている。現に家族はもちろんの事、知人も何度となく訪れて下さっている。犬の散歩の途中に立ち寄って下さったり、お手製の漬け物を持ってきて下さったりした。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロ推進委員会を設け、ミーティングなどは文書にて職員で回覧し確認している。又、日々の申し送り等、ケアの内容を再確認している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。外出したような時は、職員と一緒に散歩をしたり、歩行の不安定な方の見守りを徹底している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は同じ空間で記録等を行いながら、状況把握に努め、2階の居室にいる方には定期的に声掛けや訪室をしている。夜間は居室が見渡せるホールのソファアーにて様子観察を行い、ホールから見えるベット配置にしてある居室もあり、安全重視している。目だけの確認だけでなく、音の重要性も職員は把握できている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁や洗剤等のところには鍵をかけたり、なくすことはしないで、職員の見守りの中、管理・保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	「リスクマネジメント研修」「防火管理研修」に出席し、ミーティング・会議時に職員と情報を共有し、利用者一人ひとりについて事故予防を検討し取り組んでいる。ヒヤリハットを積極的に利用し、大きな事故につながらないように対策を話しあっている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救命救急講習会に全ての職員が出席している。ミーティング等で再度勉強をしたり、確認も行っている。	○	一年に一回の講習ではなく、頻回に実践講習会に参加したい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回以上の避難訓練を実施。地域運営推進委員会で協力を呼びかけたり、近所には緊急対応のお願いと対応文章を渡しお願いしている。地域の方を含んだ緊急連絡網も作成している。少しの地震が発生した場合でも避難している。	○	消防署指導の下、地域の方にも参加していただき災害対策訓練を行う予定。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	自由な暮らしの大切さを優先している事を具体的に説明している。予測されるリスクを見つけた時は、家族に電話連絡したり、来所された際に相談したり、対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の状況を把握しており、顔色や様子を常に観察している。また排泄チェック・入浴の皮膚観察など職員一人ひとりが体調変化に気づくように心がけている。異変に気づいた時は速やかに申し送りをし対応に結びつけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全員が把握できるよう処方箋を保管し、目を通せるようファイリングしている。また、薬の変更や用量変更の際は、職員全体に報告し、副作用についても共有できるように申し送りノートに必ず記載している。夜間帯の服薬に関しては、夜間帯に体調変化があった時に対応できるように、夜勤者が必ず服薬管理をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	午前中のラジオ体操・夕方の棒体操・その他に職員と一緒に掃除をしながら楽しい雰囲気作りをしながら体を動かしている。入床前の酢牛乳・起床時のヨーグルトを摂取している。又、繊維質の多い食材を調理し工夫している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアの必要性・重要性を職員全員が理解し、支援させていただいている。毎食後の口腔ケアの声掛けを行い、一人ひとりの能力に応じて支援している。訪問歯科受診にて定期健診もうけている。	○	口腔ケアの必要性を利用者全員が理解できるよう支援していく。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	調理にはたくさんの食材を使うようにしている。水分量は一日量を目安としている。食事内容を記録し、一人ひとりの情報を共有している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザワクチンは家族の同意のもと、毎年接種している。ノロウイルス対策として早期より消毒等し予防を徹底している。職員は通年ペーパータオルを使用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器洗いは熱湯消毒を毎回している。布巾。まな板は毎晩漂白消毒している。清潔・衛生方法を取り決め実行している。冷蔵庫、食材庫を常にチェックし、消費・賞味期限の点検をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	特殊な場所、住み家と感じることがないようにプランターで花を育てたりしている。玄関前にはテーブル、椅子を設置し、暖かい日には外で利用者がお茶を飲んでいるのを見て近隣の方が声をかけてくださる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花を利用者に生けていただいている。台所、居間が同フロアの為、料理の匂い、調理している音を感じ取ることができる。懐かしい曲をさりげなく流している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールにソファを置き、気の合った利用者同士でお話したりできるスペースがある。2階ホールは日当たりも良く、ソファ、ゲーム用品があり、ゆったりと過ごせる空間もある。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に使用していた家具。寝具を用意していただいている。馴染みの物を継続して使用していただくことによって、安心して居心地の良い生活をされている。写真、思い出の品、大切なものも置いていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	シーツ交換、掃除の際、空気清浄機を使用しほころが立たないようにしている。空気に入れ替えを行い換気をしたり、常に温度、湿度チェックをして調整している。利用者の発汗状況も確認したり、職員の感覚だけで判断することのないよう利用者の状況に合わせている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	民間改修型ホームのため、全てがバリアフリーの施設ではない。そのため、安全な生活ができるよう「入居者の現在の状況」を常にチェックし、ミーティング内容、ヒヤリハットを活用し、転倒や事故につながらないように生活環境を整え、自立への配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりのできる事、できない事を職員間でアセスメントを把握し、できない事からの混乱や失敗をしないように、見守り、声かけを重視している。また、環境の整備、事故にいたらないようヒヤリハットを活用している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関回りにはプランターで花を育て、畑でも花、野菜を育てている。畑の花は切花として、ホーム内にて入居者が花をいけている。玄関前では、天気の良い日はテーブル・イスをすぐ用意でいる環境があり、お茶を飲んだり、昼食を召し上がったりしている。又夏祭り、盆踊り、花火大会、ラジオ体操も行った。		

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	☒ ①大いに増えている ☐ ②少しずつ増えている ☐ ③あまり増えていない ☐ ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	☐ ①ほぼ全ての職員が ☒ ②職員の2／3くらいが ☐ ③職員の1／3くらいが ☐ ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☒ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2／3くらいが ☐ ③利用者の1／3くらいが ☐ ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☒ ①ほぼ全ての家族等が ☐ ②家族等の2／3くらいが ☐ ③家族等の1／3くらいが ☐ ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

利用者と職員が共に助け合い、共に生活していて、利用者の毎日の生活が穏やかで、明るい笑い声がいつも聞こえているホームです。勤続年数が4～6年の職員がほとんどで、職員がそれぞれ得意分野を認め合い、発揮できる職場です。また、「もっと勉強したい」という気持ちを常に持ち、利用者に変化がみられると「私たちはどのように支援すべきか？」とすぐ職員間で考え実行でき「利用者の為に……」という思いの満ち溢れたチームです。2月12日にホームページ公開予定です。